

建築研究資料

Building Research Data

No. 113

February 2008

21世紀鋼構造フォーラム研究報告 —6年半の活動とその成果—

Research Report on the 21th Century Steel Structure Forum
-Activities and Results of six years and a half -

21世紀鋼構造フォーラム

(独立行政法人建築研究所、社団法人日本鋼構造協会、社団法人日本鉄鋼連盟)

The 21th Century Steel Structures Forum organized
by Building Research Institute, Japan Society of Steel Construction,
and The Japan Iron and Steel Federation

独立行政法人 建築研究所

Published by

Building Research Institute

Incorporated Administrative Agency, Japan

はしがき

21世紀鋼構造フォーラムは、2001年6月、独立行政法人建築研究所が、社団法人日本鉄鋼連盟及び社団法人日本鋼構造協会に、シンポジウム「21世紀、鋼構造技術は何ができるか」の開催を呼びかけたことを機に、シンポジウムでのテーマ提案のため、これからの鋼構造技術の担い手である若手の研究者、技術者、設計者を、3団体及び学識経験者より募り、設立・発足したものです。

シンポジウム「21世紀、鋼構造技術は何ができるか」(2002年11月)をターゲットとした第一期では、テーマを固定せず、「生きる」、「進化する」、「解き放たれた」鋼構造、と言うシンボリックな概念を掲げ、新しい提案を行いました。並行して、斬新な鋼構造建築に関する作品および論文を広く公募し、優れたアイデアを表彰しました。続く第二期は、これらの提案及びシンポジウムで公募したアイデアを具現化する活動を行い、2004年11月、鋼構造シンポジウム2004特別セッションにおいてその成果を発表しました。2005年からの第三期では、それまでの検討を基に、新たに4つのテーマを選定し、2ヶ年計画で調査研究をスタートしました。2006年11月には、鋼構造シンポジウム2006特別セッションで進捗状況の中間報告を行い、そして、2007年11月の鋼構造シンポジウム2007特別セッションにおいて最終成果を報告しました。

以上のように、フォーラムの発足後、三期6年半にわたり、参加された各位の強い熱意により、活発な活動を続け、様々な成果を生みました。これは、「21世紀にふさわしい斬新な発想による鋼構造建築の創出」という、フォーラム発足当初の理念に加えて、3団体と学識経験者のコラボレーションによる人的ネットワークが求心力となった為と思われまます。捉え方によっては、このことこそ、フォーラムを支えてきた力であり、そして21世紀の新たな鋼構造建築を生み出す原動力になるだろうと考えられます。

本建築研究資料では、フォーラムの理念と成果が新しい鋼構造建築物の創出に繋がるべく、今後、新たな活動が生まれ、21世紀の鋼構造建築がより一層魅力あるものとなることを期待し、そのための一助となればと考え、6年半のフォーラム活動とその成果をとりまとめました。

最後になりますが、フォーラムのこれまでの活動にご尽力いただいた、参加された各位、事務局および関係団体の方々に深く感謝申し上げます。

平成20年2月

独立行政法人建築研究所
山内泰之